

## 【テーマ1】 活力と魅力ある都市空間の創造

<b>めざす方向</b>	<p>◎大都市としてこれまで蓄積された都市資源のポテンシャルを最大限活用し、2025年の国際博覧会の大阪誘致を見据え、大阪の都市構造の大胆な転換などにより、活力と魅力ある都市空間の創造をめざします。</p> <p>(中長期の目標・指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の大阪都心部の都市空間の姿を示した「グランドデザイン・大阪」や関西全体を視野に府域全体の都市空間の姿を示した「グランドデザイン・大阪都市圏」のもと、圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造を進める。</li> <li>・ 新たな住宅まちづくり政策の方向性を示した「住まうビジョン・大阪」のもと、多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造を進める。</li> <li>・ 今後の大阪の景観の方向性を示し、美しく魅力ある都市景観形成を進めるとともに、地域の既存資産や立地特性を活かした都市づくりを進める。</li> </ul>
--------------	---

圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造		
＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（3月末時点）＞
<p>■「グランドデザイン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の大阪都心部の都市空間の姿を示した「グランドデザイン・大阪」のもと、住み、働き、楽しみたくなる魅力を備えた都市空間の創造に府・大阪市一体で着実に取り組む。</li> </ul>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>■「グランドデザイン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うめきた2期の民間事業者2次公募に向けた取組み、みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会(*2)の設立</li> <li>・ なんば駅前の広場化の実現に向け、市や関係者と道路空間の再編等を検討</li> </ul>	<p>■「グランドデザイン・大阪」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者と協議・調整し、うめきた2期の民間事業者2次公募や、「みどり」を活用したイノベーション創出に向けた実証研究プロジェクトについての検討を実施</li> <li>29年6月 「みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」設立</li> <li>8月 協議会設立記念シンポジウム開催 スケジュール公表（年内2次公募、36年夏先行まちびらき）</li> <li>12月 開発事業者の募集を開始</li> <li>30年2月 イノベーションストリーム KANSAI2018開催</li> <li>・ 4月に公表された「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」に基づき、なんば駅前広場の整備および利活用開始に向け、市や関係者と協議・調整を実施</li> <li>29年4月 「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」公表</li> <li>30年2月 整備スケジュールの公表（32年度頃駅前空間（広場）部分のオープン）</li> </ul>

■「グランドデザイン・大阪都市圏」の推進

・府域全体の都市空間の創造に向けた方向性を示した「グランドデザイン・大阪都市圏」のもと、都市の活力の源である「人」の活動を中心に、都市間連携を強化し、行政区域にとらわれない「広域連携型都市構造(\*1)」への転換を図る取組を進める。

・「グランドデザイン・大阪都市圏」に基づき、産業用地の提供と集落の定住人口の増加に向けた取組を進める。

■「グランドデザイン・大阪都市圏」の推進

・淀川沿川のまちづくり団体等で構成するプラットフォームの設立、広域連携型のまちづくり戦略の策定

・関係者等と協議し、「みどり」を活かした都市空間創造戦略のとりまとめ

・商工労働部と連携し、市町村に対する市街化調整区域(\*3)における開発許可等の新たな審査基準活用の働きかけの実施  
実施市町村数：10 市町村

■「グランドデザイン・大阪都市圏」の推進

・淀川沿川まちづくりプラットフォームを設立するとともに、まちづくり団体等との意見交換を踏まえ、「淀川沿川広域連携型のまちづくり戦略」を策定  
関係者間を調整し、具体的な連携事業を実施

- 29年8月 「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」設立、第1回プラットフォーム開催
- 11月 具体的連携事業「歴史街道に相応しい景観形成に向けた視察・三宿寄り合い（意見交換会）」開催  
第2回プラットフォーム開催
- 2月 第3回プラットフォーム開催  
「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略（素案）」提示
- 3月 具体的連携事業「船（舟運）による摂津国と河内国の往来復活交流会」開催  
「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」発表（「淀川沿川まちづくり」船出の会）

・「みどり」を活かした都市空間創造戦略のとりまとめに向け、有識者からの意見聴取実施など、関係者間で協議・調整し、「グリーンデザイン推進戦略」を策定

- 29年9月 大阪府緑化推進本部幹事会において意見交換
- 10月～1月 有識者意見聴取
- 3月 「グリーンデザイン推進戦略」策定

・市街化調整区域の産業立地の基準策定について、商工労働部と連携し、市町村に働きかけを実施  
実施市町村数：16 市町村  
千早赤阪村、豊能町において新たな立地基準の策定  
29年10月 千早赤阪村において基準策定  
30年1月 能勢町において基準策定

<p>(スケジュール)</p> <p>29年5月～ : 市街化調整区域の開発基準の活用に関する市長会・町村長会への説明</p> <p>7月 : みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会総会開催</p> <p>29年中 : 「みどり」を活かした都市空間創造戦略のとりまとめ</p> <p>29年度中 : 淀川沿川の広域連携型のまちづくり戦略の策定</p>	<p>・「ランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向けた推進体制の構築</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・うめきた2期やなんば駅周辺等の取組により、「ランドデザイン・大阪」に基づく取組を着実に進める。</p> <p>・広域連携型のまちづくりや「みどり」を活かした都市空間創造、「ランドデザイン・大阪都市圏」の推進体制の構築により、活力と魅力ある都市空間の創造を進める。</p> <p>・市街化調整区域における開発許可等の新たな審査基準の活用により、市町村と連携して産業用地の提供と集落の定住人口の増加を進める。</p>	<p>・「ランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向けて、庁内、関係市町村、民間事業者等と協議を実施</p> <p>29年8月 関係部局で構成する「ランドデザイン・大阪都市圏連絡調整会議」開催</p> <p>12月 大阪府、奈良県、和歌山県の関係18自治体による広域サイクルルート形成に向けた広域連携会議を開催</p> <p>30年1月 「第2回ランドデザイン・大阪都市圏連絡調整会議」開催</p>
---	--	--

**多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造**

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（3月末時点）>
<p>■「住まうビジョン・大阪」の推進</p> <p>・「住まうビジョン・大阪」に基づき、都市の活力は「人」という基本的な考え方のもと、これまでの安全・安心の確保を中心とした取組だけでなく、「活力・魅力の創出」と「安全・安心の確保」が相互に作用しあい、好循環を生み出す政策を展開するとともに、市町村と連携して大阪への移住・定住を促進する具体的な方策を検討する。</p> <p>(スケジュール)</p> <p>29年内 : 移住・定住の促進方策の検討、とりまとめ</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>■「住まうビジョン・大阪」の推進</p> <p>・市街化調整区域における開発許可等の新たな審査基準の活用や、府営住宅の空室を活用した子育て支援など、大阪への移住・定住促進に向けた取組を盛り込んだ具体的な方策の検討、とりまとめ</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造に向けた取組により、大阪への移住・定住を促進する。</p>	<p>■「住まうビジョン・大阪」の推進</p> <p>・移住・定住促進方策について、庁内、関係市町村等と連携し検討・実施</p> <p>29年5月 府営住宅の空室を「おためし移住用住戸」に活用（泉佐野市）</p> <p>8月 関係部局とともに、市町村の魅力情報や、住まい、仕事の情報を連携発信する「移住・定住イベント」を実施</p> <p>10月 千早赤阪村において定住人口の増加に向けた新たな立地基準の策定</p> <p>30年1月 移住・定住に向けた取組みをとりまとめ、住宅まちづくり審議会において報告</p> <p>3月 「大阪版・空家バンク」をリニューアルし、大阪での暮らし方を、空家情報とともに情報発信</p>

**景観資源による都市魅力の向上**

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（3月末時点）>
<p>■「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p> <p>・「ランドデザイン・大阪都市圏」が示す新たな広域連携型の景</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>■「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p>	<p>■「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p> <p>・大阪府景観審議会において、「大阪府の景観形成のあり</p>

<p>観形成の実現に向け、地域が主体となり自立した景観形成活動に取り組む「エリアマネジメント(*4)の構築」等の具体的な戦略を盛り込んだ「都市景観ビジョン・大阪」を策定する。</p> <p><b>(スケジュール)</b>                  29年4月：大阪府景観審議会へ「大阪府の景観形成のあり方」について諮問                  8月：大阪府景観審議会答申中間とりまとめ                  12月：大阪府景観審議会答申、「都市景観ビジョン・大阪(案)」パブリックコメント                  30年1月：「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p>	<p>・大阪府景観審議会での議論を経て、「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p> <p><b>◇成果指標(アウトカム)</b>                  (定性的な目標)                  ・みどりや水辺など、圧倒的な都市魅力と品格ある都市景観の実現に向けた方向性を示す。</p>	<p>方」、「屋外広告物の安全性について」を諮問、答申。「都市景観ビジョン・大阪」を策定                  29年4月 大阪府景観審議会に「大阪府の景観形成のあり方」について諮問                  8月 「大阪府の景観形成のあり方」審議会答申中間とりまとめ                  「屋外広告物の安全性について」諮問、答申                  12月 大阪府景観審議会 答申、「都市景観ビジョン・大阪(案)」パブリックコメント                  30年1月 「都市景観ビジョン・大阪」の策定</p>
---	--	---

**地域創造の推進**

<p>＜今年度何をするか(取組の内容、手法・スケジュール)＞</p>	<p>＜何をどのような状態にするか(目標)＞</p>	<p>＜進捗状況(3月末時点)＞</p>
<p><b>■千里・泉北ニュータウンの再生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千里ニュータウンが着実に持続発展するよう「千里ニュータウン再生指針(*5)」の進捗状況を踏まえ、今後10年間で取り組むべき方向性をとりまとめる。</li> <li>・「泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン(*6)」、「泉ヶ丘駅前地域活性化アクションプラン(*7)」に基づき、公民関係者が協働して取組みを進めるとともに、「泉北ニュータウン公的賃貸住宅再生計画(*8)」に基づき、エリア価値向上をめざした住宅ストックと活用を活かした取組を進める。</li> <li>・泉北ニュータウンのまちびらき50年を契機に、地元市民や関係事業者等と一体となったエリア価値向上に向けた取組を進める。</li> </ul>	<p><b>◇活動指標(アウトプット)</b></p> <p><b>■千里・泉北ニュータウンの再生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千里ニュータウン新再生指針の策定</li> <li>・泉北ニュータウンの公的賃貸住宅活用地への多様な民間事業者参画の仕組みづくり</li> <li>・地元市民や関係事業者等と一体となった泉北ニュータウンまちびらき50周年事業の実施</li> </ul>	<p><b>■千里・泉北ニュータウンの再生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千里ニュータウンにおけるこれまでの取組みの点検・評価を実施、学識経験者、市民等で構成する意見聴取会議を開催し、「千里ニュータウン再生指針2018」を策定                      29年10月 第1回意見聴取会議開催                      11月 第2回意見聴取会議開催                      30年2月 第3回意見聴取会議開催                      府民意見等の募集(～3月)                      3月 「千里ニュータウン再生指針2018」の策定</li> <li>・泉北ニュータウンにおける公民連携の民間参画の仕組みとして、まちづくりのテーマの検討段階から民間事業者との対話を行う「泉北ニュータウンまちづくりプラットフォーム」を設立し、37事業者が参画</li> <li>・泉北ニュータウンまちびらき50周年事業を地元市民、関係事業者等とともに実施                      29年4月 泉北ニュータウンまちびらき50周年オープニングイベント開催                      7月 全国初となる「ニュータウン全国会議(フォーラム)」を開催</li> </ul>

■彩都における新たな都市魅力の創出

・彩都東部地区全体の事業化をめざし、新たな都市魅力創出の具体化に向けた取組を進める。

■りんくうタウンの活性化

・りんくう公園予定地等の活用など地元市町や民間と連携して活性化を進める。

(スケジュール)

- 29年4月 : 泉北ニュータウンまちびらき50周年事業の～12月 実施
- 8月 : 泉北ニュータウンの民間事業者参画の仕組みづくり
- 9月 : りんくう公園予定地の民間事業者決定
- 12月 : 千里ニュータウン新再生指針の策定  
彩都東部地区の都市計画変更素案作成
- 29年度中 : りんくう公園予定地の定期借地契約の締結

■彩都における新たな都市魅力の創出

・彩都東部地区の都市計画変更に向けた事前協議、素案作成

■りんくうタウンの活性化

・りんくう公園予定地における民間事業者との定期借地契約の締結

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・新再生指針の策定により今後の新たな方向性を示し、千里ニュータウンの再生を進める。
- ・泉ヶ丘駅前地域の活性化や、民間事業者との連携による公的賃貸住宅資産の活用により泉北ニュータウンの再生を進める。
- ・泉北ニュータウンまちびらき 50 周年事業を通してエリア価値向上を図る。
- ・彩都東部地区において、事業化に向けた調整やものづくり企業などの誘致活動により事業を促進し、新たな都市魅力を創造する。
- ・地元市町や民間との連携により、りんくうタウンの活性化を進める。

- 12月 「泉北ニュータウンまちづくりプラットフォーム」の設立
- 泉北ニュータウンまちびらき 50 周年  
エンディングイベント開催

■彩都における新たな都市魅力の創出

・彩都東部地区について、都市計画変更素案を作成  
彩都東部地区への進出が見込まれる企業が参加するイベント等において PR を実施

- 29年6月 「Bio tech2017」(東京)にてPR
- 8月 イノベーションに関するフォーラムにてPR
- 10月 「Bio Japan2017」(横浜)、彩都  
現地見学会にてPR
- 11月 「大阪を語る東京の会」(東京)にてPR
- 30年3月 都市計画変更素案の作成

■りんくうタウンの活性化

・りんくう公園予定地における開発運営事業者の公募を実施し、事業者の決定及び基本協定書を締結

- 29年5月 公募開始
- 8月 提案の受付
- 9月 プレゼンテーション等審査による事業者の決定、審査結果公表
- 30年2月 基本協定書締結

## 【部局長コメント（総評）】

## &lt;取組状況の点検&gt;

## ■ 圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造

当初の目標を達成することができました。

- ・ うめきた2期の2次公募の実施や「みどり」を活用したイノベーション創出に向けた検討、なんば駅前広場の整備に向けた協議・調整など「ランドデザイン・大阪」における象徴的エリアの取組みを府・市一体で着実に推進しました。
- ・ 淀川沿川をはじめとした広域連携型のまちづくり戦略をとりまとめるとともに、「みどり」を活かした都市空間創造戦略として「グリーンデザイン推進戦略」を策定しました。

## ■ 多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造

当初の目標を達成することができました。

- ・ 大阪への移住・定住の促進に向け、府内、関係市町村等と連携し移住・定住促進方策について検討・実施しました。

## ■ 景観資源による都市魅力の向上

当初の目標を達成することができました。

- ・ 関西全体を視野に入れ、世界に誇る大阪の景観をさらに磨くための景観形成の方向性や実現方策を示した「都市景観ビジョン・大阪」を策定しました。

## ■ 地域創造の推進

当初の目標を達成することができました。

- ・ 千里ニュータウンが引き続き持続発展していけるよう、今後10年間で住民、事業者、行政等が取り組むべき方向性をとりまとめた「千里ニュータウン再生指針2018」を策定しました。
- ・ 泉北ニュータウンの再生に向け、民間事業者との対話を行う仕組みとして「泉北ニュータウンまちづくりプラットフォーム」を設置しました。
- ・ 彩都東部地区については、事業化に向けて都市計画変更素案を作成するとともに、競争力の高い産業集積が加速されるよう府内及び首都圏で開催されたイベント等において企業誘致プロモーションを実施しました。
- ・ りんくうタウンの活性化については、公園予定地における開発運営事業者を決定するなど、地元市町や民間と連携したまちの活性化に取り組みました。

## &lt;今後について&gt;

## ■ 圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造

- ・ 「ランドデザイン・大阪」に基づき、府・大阪市一体で、住み、働き、楽しみとなる魅力を備えた都市空間の創造を推進するため、うめきた2期での民間事業者の提案内容を踏まえたまちづくりの実現やなんば駅前空間の広場化に向けて取り組みます。
- ・ 「ランドデザイン・大阪都市圏」に基づき、「広域連携型都市構造」への転換や都市空間を支えるみどりの活用をめざし、「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」や「グリーンデザイン推進戦略」の取組みを通じて、魅力あふれる都市空間の創造を推進します。

## ■ 多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造

- ・ 「住まうビジョン・大阪」に基づき、多様な人々が住まい、訪れる居住魅力あふれる都市の創造に向け、「活力・魅力の創出」と「安全・安心の確保」の好循環を生み出す政策を展開していきます。

## ■ 景観資源による都市魅力の向上

- ・ 「都市景観ビジョン・大阪」に基づき、多くの人々を惹き付ける「きらめく世界都市・大阪」の実現に向け、民間が主体的に景観づくりに取り組める環境づくりや景観づくりの担い手育成、大阪の魅力の発掘などに取り組みます。

## ■ 地域創造の推進

- ・ 「千里ニュータウン再生指針2018」に基づく取組み（健康増進やイノベーション等に関連した住宅地づくり、広域的なみどりのネットワークづくり等）の円滑な実施に向け、千里ニュータウン再生連絡協議会を通じて、地元市、住民、事業者等と連携していきます。
- ・ 府営住宅の建替事業などにより創出した活用地の活用にあたり、「泉北ニュータウンまちづくりプラットフォーム」で得られた民間事業者のノウハウやアイデアを取り入れ、「健康」「安心」「環境」などをテーマにしたまちづくりに取り組みます。また、泉北ニュータウン再生府市等連携協議会を通じて、泉ヶ丘駅前の再整備等の検討を事業進捗に応じて行い、「泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン」の実現に取り組みます。
- ・ 平成31年度からの彩都東部地区の事業化に向け、都市計画変更や組合設立について、彩都建設推進協議会を通じて関係者と協議を進めるとともに、引き続き、企業誘致を行っていきます。
- ・ りんくうタウンの活性化については、公園予定地を活用した魅力の高い施設とみどり豊かな憩い空間づくりを進めます。

